

目次

1 圏域概要	・・・	2
(1) 圏域の背景・現状		
ア. 地理・自然的特性	・・・	2
イ. 産業の特徴	・・・	2
ウ. 人口の特性	・・・	3
エ. 圏域の交流人口（通勤・通学依存率など）	・・・	6
オ. 圏域の課題	・・・	8
カ. 各市町の紹介	・・・	8
(2) 圏域の取り組み		
ア. 北九州都市圏広域行政推進協議会	・・・	11
イ. 福岡県北東部地方拠点都市地域整備協議会	・・・	11
ウ. その他 ～北九州市のインフラ広域協力～	・・・	12
エ. 九州周防灘地域定住自立圏	・・・	12
2 新たな広域連携事業の取組状況	・・・	13
(1) 地方中枢拠点都市圏における広域連携		
I 圏域全体の経済成長のけん引		
■官民連携による北九州地域の経済発展に向けた検討・実施	・・・	13
■圏域における産業クラスターの形成及びイノベーション実現に向けた事業の展開	・・・	14
①「パーツネット北九州」の発展・成長に向けた事業展開	・・・	14
②新たな成長分野に関するニーズ、シーズ調査の実施及び研究会の開催	・・・	15
③中小企業の知的基盤、技術力・研究開発力の底上げを図るためのセミナーの実施	・・・	16
④「北九州知的所有権センター」の圏域全体への活用促進事業	・・・	20
■圏域への観光客誘致に向けた集客促進事業の推進	・・・	21
■世界遺産を活用した地域活性化事業の推進	・・・	24
■地域ブランド育成に向けた広域連携の推進	・・・	25
II 高次の都市機能の集積		
■広域的な交通課題の研究・調査	・・・	27
III 圏域全体の生活関連機能サービスの向上		
■圏域全体への公共施設活用の研究	・・・	29
■ICT分野の共同利用推進	・・・	31
①地理空間情報システム（GIS）の広域的な共同利用に向けての検討	・・・	31
②ICTを活用した圏域全体のイベント観光情報の連携に関する調査・研究	・・・	32
3 新たな広域連携の推進による効果としての事業の検証指標（KPI）	・・・	33
4 圏域の将来像	・・・	34
(1) 連携中枢都市圏の形成に向けたスケジュール		
(2) 北九州市・都市圏域（福岡県北東部地域）の方向性		
5 再委託した成果物一覧	・・・	37

1 圏域概要

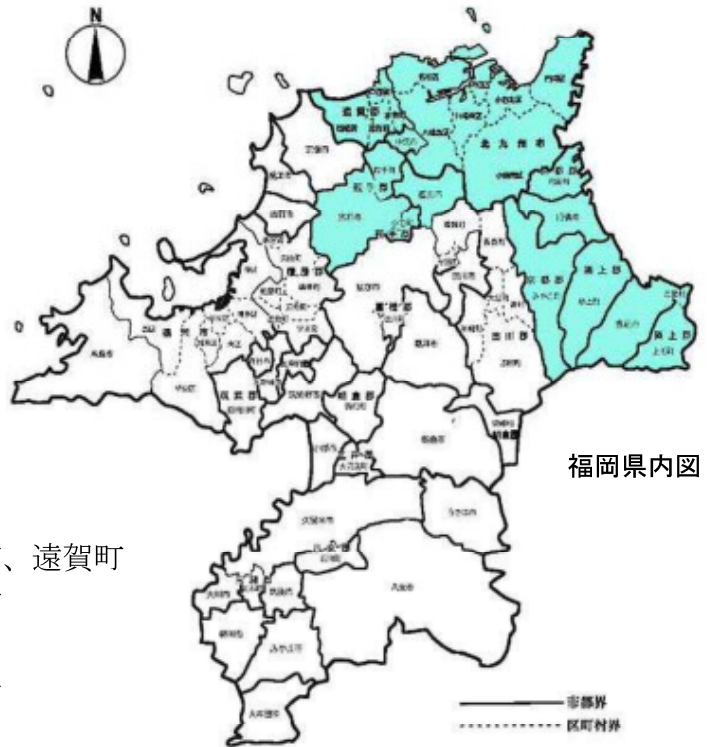
(1) 圏域の背景・現状

【中心市】

- ・北九州市

【連携市町】

- ・中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町
- ・直方市、宮若市、小竹町、鞍手町
- ・行橋市、荻田町、みやこ町、
豊前市、吉富町、上毛町、築上町



ア. 地理・自然的特性

北九州・都市圏域である福岡県北東部地域の17市町は、総人口約142万人、総面積約1416km²（H22.10.1現在）であり、ともに福岡県全体の約30%を占めている。九州の最北部であるとともに、九州と本州、そして東九州と西九州の結節点に位置し、古くから陸上・海上の交通の要衝として発展してきた。

圏域の西側は福岡都市圏と境を接し、南側は飯塚市・田川市、東側は大分県中津市と接するとともに、関門海峡を挟んで山口県下関市にも面している。

響灘、関門海峡、周防灘の三方を海に囲まれ、中心を福地山系が貫き、一級河川の遠賀川を有するなど、壮大な景勝地も多く、豊かな自然環境に恵まれている圏域である。

イ. 産業の特徴

陸上・海上交通の要衝という立地特性を活かし、古くから様々な産業や文化が発展してきた。特に、1901年の官営八幡製鐵所創業以来、筑豊地域の石炭産業振興や鉄道、港湾の整備などを背景に「北九州工業地帯」を中心とした製造業が発展してきた地域である。

現在も、鉄鋼、機械、化学など様々な素材型産業が集積する一方で、自動車関連産業など新たな分野の企業も進出している。

一方、この地域は豊かな自然環境にも恵まれており、都市近郊型の農林水産業が展開されており、圏域内の北九州市や隣接する福岡都市圏という大消費地を擁する特性を活かして、新鮮な生産物を安定的に供給している。また最近では、農業や水産業のほか、「産業」を地域資源とする産業観光や環境関連産業などの集積が進むエリアでもある。

また、本圏域の産業別就業人口割合（H22.10.1現在）は、第一次産業が1.6%、二次産業が25.6%、第三次産業が68.1%となっており、福岡県全体より、第二次産業が高く、第一次産業、第三次産業が低くなっている。

ウ. 人口の特性

国勢調査によると、1985年には152万人を超えていた本圏域（17市町）の総人口は、産業構造の転換による素材型産業の低迷を受け、年々減少傾向に転じ2010年には、142万人余りとなっている。「国立社会保障・人口問題研究所」による将来推計では2040年には、111万3千人まで減少すると予想されている（資料1）。

特に中心的都市である「北九州市」「行橋市」「直方市」「中間市」の減少予測は顕著である（資料2参照）。

また、少子化・高齢化の進展も著しく、高齢者に関しては、2010年は圏域全体で4人に1人（高齢化率 約25%）が65歳以上であったものが、2040年には3人に1人以上（同 約38%）へと大幅に上昇すると見込まれている。高齢化率は上昇しながらも、高齢者の人数自体は、減少する市町も現れてくると予想されている。

逆に若い世代が、人口に占める比率は、圏域の全市町で減少傾向にある（資料3参照）。

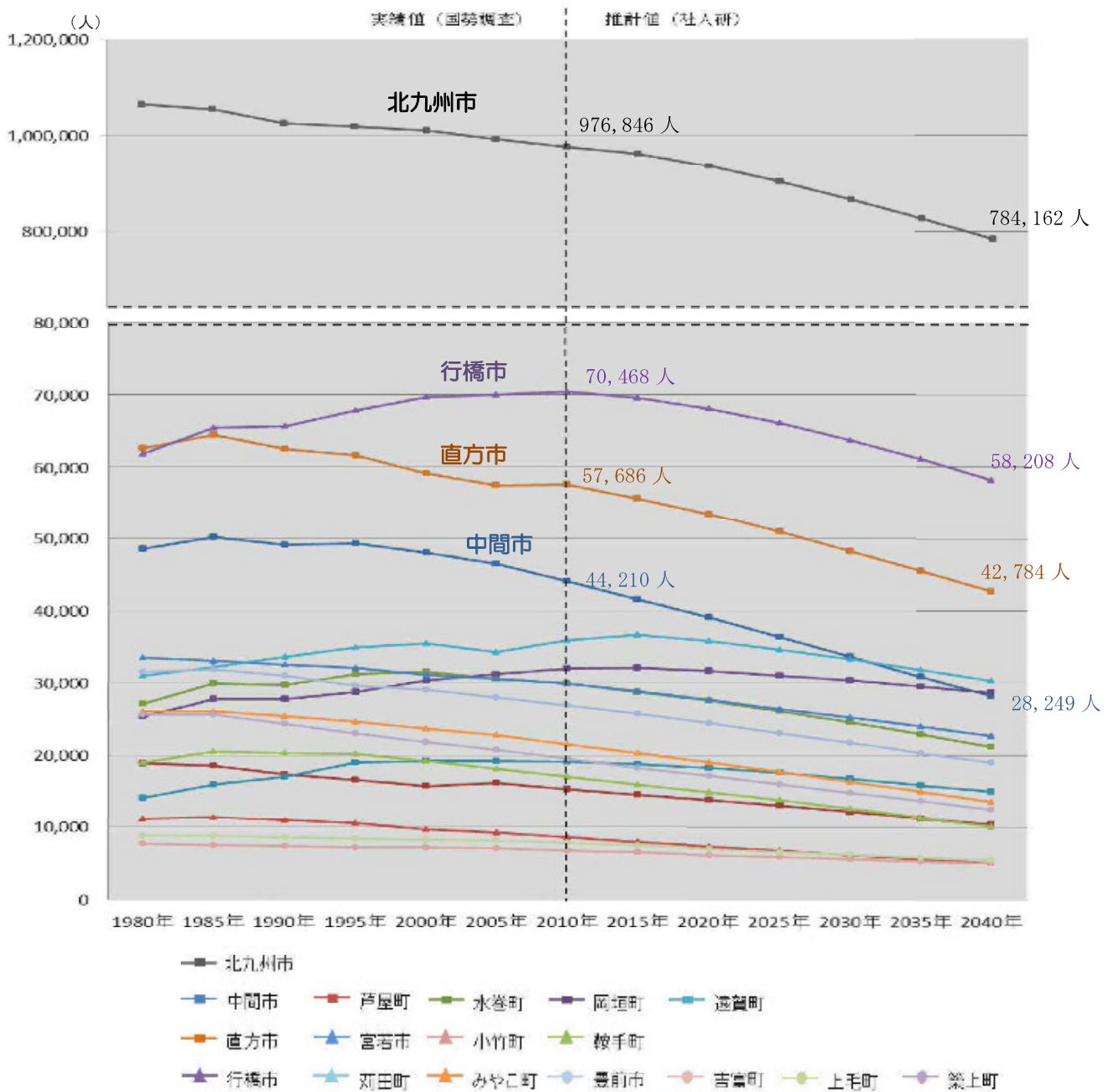
【資料1】 圏域の人口と将来推計人口など

は通勤・通学割合 0.1以上の市町

	市町村名	総人口（人）			北九州市への 通勤・通学割合	面積（k㎡）	
		2010年	2040年	増減率（%）			
中心市	北九州市	976,846	784,162	▲19.7		489.60	
近隣市町	中遠地域	中間市	44,210	28,249	▲36.1	0.43	15.98
		芦屋町	15,369	10,537	▲31.4	0.34	11.49
		水巻町	30,021	21,201	▲29.4	0.47	11.03
		岡垣町	32,119	28,750	▲10.5	0.30	48.51
		遠賀町	19,160	15,001	▲21.7	0.37	22.14
	直鞍地域	直方市	57,686	42,784	▲25.8	0.15	61.78
		宮若市	30,081	22,751	▲24.4	0.06	139.99
		小竹町	8,602	5,103	▲40.7	0.06	14.18
		鞍手町	17,088	10,293	▲39.8	0.19	35.58
	京築地域	行橋市	70,468	58,208	▲17.4	0.17	69.83
		苅田町	36,005	30,302	▲15.8	0.23	46.61
		みやこ町	21,572	13,654	▲36.7	0.13	151.28
		豊前市	27,031	19,041	▲29.6	0.05	111.17
		吉富町	6,792	5,078	▲25.2	0.03	5.68
上毛町		7,852	5,518	▲29.7	0.03	62.40	
	築上町	19,544	12,575	▲35.7	0.10	119.35	
圏域合計		1,420,446	1,113,207	▲21.6	—	1416.60	

（出展）H22.10.1 国勢調査および「国立社会保障・人口問題研究所」将来推計人口

【資料2】 圏域（17市町）の人口推移と今後の推計



(出展)実績値は国勢調査、推計部分は国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』